

地域と共に歩む

富山商工会議所議員
インタビュー⑦



信用第一を受け継ぎ140年 「商いは人のため社会のために」

富山商工会議所 常議員

河上金物株式会社

代表取締役会長

河上 彌一郎

(かわかみ やいちろう)

河上金物株式会社は、鋼材をはじめ建設関連機材や資材などの販売やリースを幅広く取り扱う、北陸有数の鉄鋼商社です。富山県が誕生して2年後の1885（明治18）年に、現在の富山市西町で鍋や釜など生活金物を商う店として創業。戦後から鉄鋼関連を主力として、インフラや工場の建設、災害復旧などの工事現場に機材や資材を安定供給する役割を担い、地域の発展を支えてきました。2025（令和7）年の今年、創業140周年を迎えます。西町の再開発事業にも尽力した同社代表取締役会長、河上彌一郎さんにお話を伺いました。

社長就任時はどうでしたか？

「高校まで西町で過ごし、商売が身近な環境で幼い頃から跡を継ぐものと思って育ちました。1981（昭和56）年に父が亡くなり、33歳で社長に就きましたが、200人近い社員を前に1人では何もできず、父のことをよく思い起こしていたものです。父と同じ歳の番頭に20年にわたり鍛えられたことが、事業を展開していくうえで大きな支えとなりました。苦労もありましたが、役員や従業員、商工会議所などで活動を共にしてきた先輩や仲間のおかげで、代々積み重ねてきた信用の

おかげで救われていることを実感。そのことに感謝して、人との繋がりと信用を一層大切に考えてきました」

富山市中心市街地の再開発事業で『TOYAMAキラリ』の建設に尽力されました。

「西町南地区再開発事業は、勉強会から2015（平成27）年に完了するまでに約20年の年月を費やしました。地権者の一人として組合理事長を任され、語れば本ができるほどのさまざまな困難がありました。県や市のトップをはじめ、多くの皆様のご協力によって、最終的にガラス美術館、図書館、富山第一銀行の本店を有する複合施設を完成させることができました。TOYAMAキラリが県内外から多くの人々が訪れるスポットとなり、「公共のためにこの西町の土地を役立てたい」という話があったら、必ず協力しなさい。そうすることで、信用というもつと大きな財産を得られるから」と話していた祖父の考えは、正しかったと思わされます。まちづくり担当の副会頭としても大きな達成感がありました」

会員の方々へメッセージをお願いします。

「当社は創業以来『信用第一』を受け継いできました。商業は人と人との繋がり。お客様にお願いをして信頼関係をいただいて、成り立っていくものと考えます。『商いは私事ではない。人のため社会のために行う公事である。』



▲隈研吾氏が手掛け、立山の氷の岩脈をイメージしたというファザードが印象的な『TOYAMAキラリ』。市民から観光客まで幅広く親しまれる建物の地下1階には、『河上金物発祥の地』を記した銅板が、密かに取り付けられているとのこと。

より力強い活動が可能となる。そのためには、まず、お客様に誠心誠意尽くすことにより、深い信頼関係が生まれてくる。これは、私を支えてくれた番頭の人生訓です。それを続けることで利益を出すことができ、経営状況が厳しいときには助けてくれる人がいることを、身をもって経験してきました。これまでの繋がりは信頼やお付き合いの結果であり、人との出会いを大切にしたいと思えます」

〇取材を終えて

西町南地区再開発事業の完了後も、TOYAMAキラリへは折に触れて足を運び、「ガラス美術館の企画展もすべて鑑賞しています」と語る河上会長。まちづくりには今も変わらない思いを寄せ、熱い眼差しを向けています。当所でも豊富な経験を発揮され、頼れる存在です。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

河上金物株式会社

創業 1885(明治18)年
富山市新庄本町2丁目1番120号

